

# TYダルタリー (試交番号18N.18512)

超多収性ミニトマト品種ダルタリーに黄化葉巻病他の耐病性を付与!



## 品種特性

- ・オランダを代表する超多収性のミニトマト品種ダルタリーに黄化葉巻病、斑点病、ウドンコ病の耐病性を付与!
  - ・果重は16~20g、ダルタリーよりやや大きく、低段からダブル花房となり、花房当たり20~30の花数を着ける。ダルタリーと同等かそれ以上の収量性を示す。
  - ・大きめの果実だが、安定して糖度7度前後を示し食味も良い。
  - ・裂果・軟果の発生が極めて少なく可販果率が高い。高温期においても非常に棚持ちが良い。
  - ・果実サイズ、果形ともに良く揃う。
  - ・草勢が強く節間はやや長い、主茎が素直に伸長し誘引し易い。
  - ・高温着果性に優れていて、裂果・軟果をはじめとした高温障害果の発生が少ない。
  - ・病害抵抗性はトマトモザイクウイルス(Tm-2a)、葉カビ病(Cf-9)、萎凋病レース1,2、半身萎凋病レース1、根腐れ萎凋病
  - ・病虫害耐性はトマト黄化葉巻病、斑点病、ウドンコ病、ネコブセンチュウ
- フルスペックの病虫害抵抗性・耐性!**

## 栽培のポイント

- ・草勢の強い品種のため、夏期の定植では摘葉等の草勢のコントロールが必要です。
- ・冬、春期の低温時期の定植では、強草勢の台木を利用して下さい。
- ・低段の果実が大きくなりすぎる傾向があるため、ある程度密植での栽培をお勧めします。
- ・比較的、求肥力・吸水力の強い品種です。十分な施肥・灌水管理を行って下さい。
- ・花房先端の小花は摘除して下さい。

### (適作型)

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス促成						●	△					
ハウス半促成												
ハウス夏越し長期												

● : 播種期 △ : 定植期 〇 : 収穫期

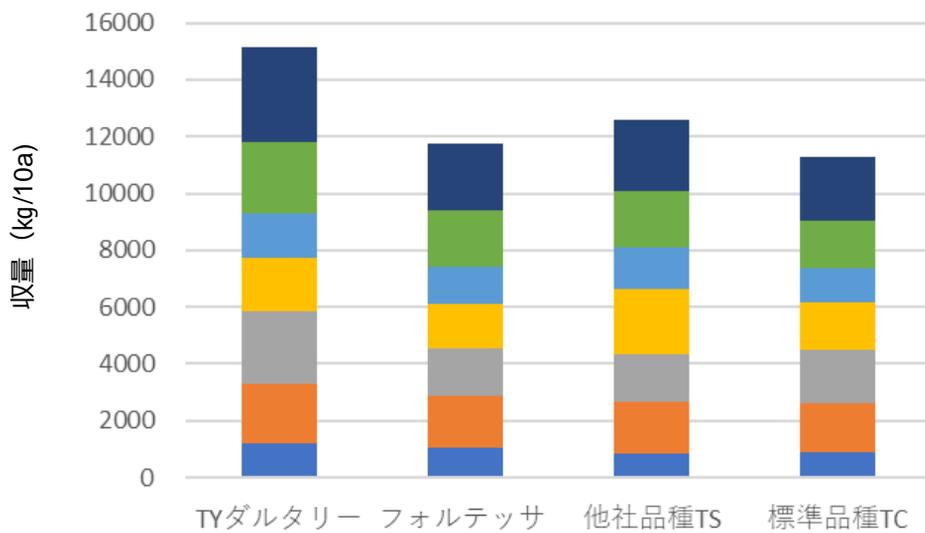


図1 熊本県内のミニトマト品種促成栽培試験における暫定月別収量（2021/22）

■10月 ■11月 ■12月 ■1月 ■2月 ■3月 ■4月

試験実施場所：熊本市植木町  
 定植日：2021年8月5日  
 栽培法：養鶏栽培、つる下ろし栽培  
 栽植密度：3,100株/10a  
 供試株数：234株もしくは468株定植  
 台木品種：養液栽培向きの強勢台木品種

表1 ミニトマト品種の促成栽培試験(2021/22)の暫定結果

品種名	株当たり		
	積算収量(kg)	平均果重(g)	糖度
標準品種KK	1.69	15.9	6.3
標準品種KQ	1.50	14.4	6.5
標準品種TC	1.98	13.7	6.6
17N.4067	2.55	16.1	7.5
ダルタリー	2.50	19.6	6.2
TYダルタリー	3.36	22.8	6.5

\* RZBJ研究農場（千葉県芝山町）で実施した促成栽培試験（土耕加温パ イ プ ハウス栽培）  
 定植日：2021年9月10日、収穫期間：11月4日～1月18日 供試株数: 各品種8株